

認知症当事者が社会に望むこと

- 1 認知症当事者は、学習能力もあり責任能力もあるので、保護という、名目で自由をうばわないでほしい。
- 2 必要なものは介護者が全て買い与えているとゆう理由で財布を渡さずに、買い物する基本的人権を奪わないで欲しい。選択する意思も能力もあるので、財布を渡して、自由に買い物をさせて欲しい。
- 3 失敗して自信をなくしてはいけないという理由で、なんでも先回りして本人のやる気をなくすことは、やめて欲しい。
- 4 命に関係のない失敗はさせて欲しい。学習能力もあるので、経験値として、なんでもさせて欲しい。
- 5 反応が遅いという理由で、何も理解できていないと、決めつけて、自尊心を傷つけることは、やめて欲しい。時間をかければ、たいていのことわできるので、待って欲しい。
- 6 何か援助しましょうかと上から目線ではなしかけるのではなく、対等な立場で一緒に楽しみませんかと声をかけて欲しい。
- 7 社会に役立ちたいと思っているので、認知症当事者をあてにしてもらいたい。
- 8 残された能力はたくさんあるので、活躍する場所と機会を与えて欲しい。
- 9 やることが遅いと言うことで、排除したる差別しないで、時間かかっても何でもさせて欲しい。
- 10 住み慣れた地域で、認知症当事者を排除するのではなく、社会の構成要員として認めて欲しい。あれができる、これができるという有用性で、人間の価値を決めないで欲しい。何ができなくても尊い存在であると言うことを認めて欲しい。何もできなくともそばにいて嬉しうと言って欲しい。